

# 度会町における

## 平成28年度全国学力・学習状況調査の結果・分析と今後の取組について

度会町教育委員会  
平成28年10月

本年4月19日に、小学校第6学年及び中学校第3学年を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果概要について、度会町の児童生徒の学力の定着状況、学習状況、生活習慣等の分析結果や今後の取組を以下のとおりまとめました。

なお、「全国学力・学習状況調査」は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる目的で実施されています。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立することが目的です。

しかしながら、調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面です。このことを十分考慮し、今後の当町の教育の一層の充実を図ってまいります。

### 1、全体概要

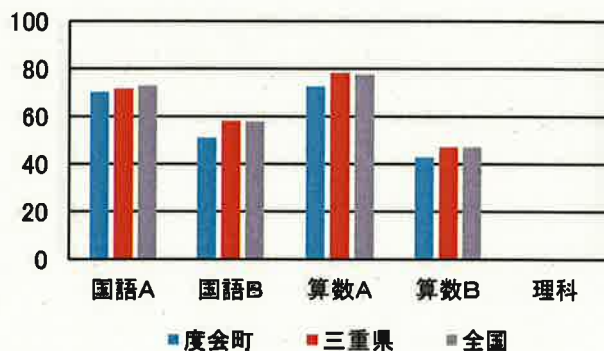
#### ■各教科平均正答率の状況

##### <小学校>

平均正答率	国語A	国語B	算数A	算数B	理科
設問数	15	10	16	13	—
度会町	70.4	51.1	72.7	42.9	—
三重県	71.7	58.1	78.3	47.1	—
全国	72.9	57.8	77.6	47.2	—

A…主として「知識」に関する問題 (％)

B…主として「活用」に関する問題

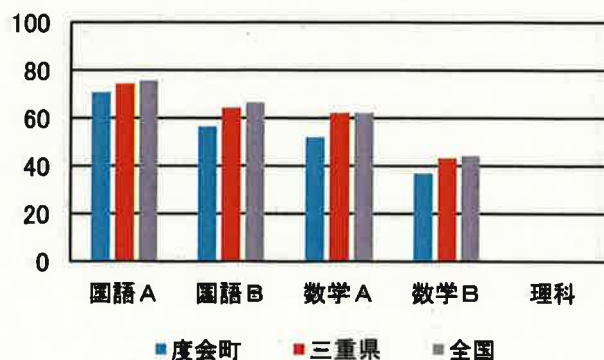


##### <中学校>

平均正答率	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
設問数	33	9	36	15	—
度会町	70.7	56.4	52.0	36.8	—
三重県	74.4	64.3	62.2	43.2	—
全国	75.6	66.5	62.2	44.1	—

A…主として「知識」に関する問題 (％)

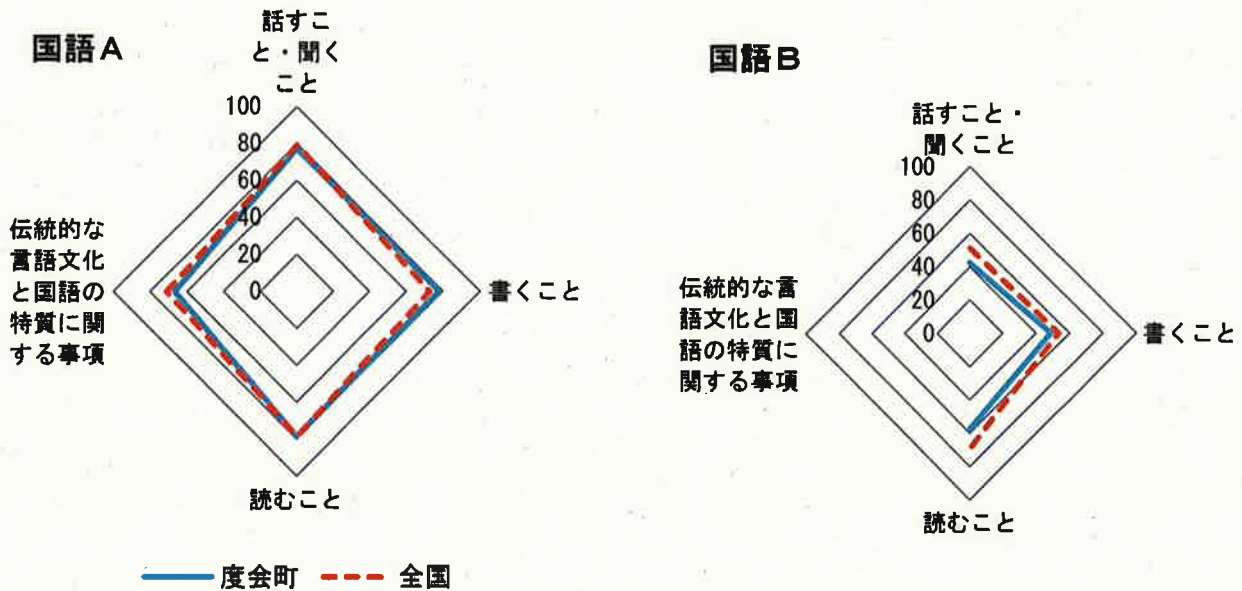
B…主として「活用」に関する問題



## 2、教科別概要

### 【1】小学校国語

#### ■領域別平均正答率の状況



※国語Bに「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」領域にかかる問題は出題されていません。

#### ■調査問題結果からみる傾向（◇強み ◆弱み）

◆漢字の読みは、習得にむらがありません。

- ・問題A1-3 むだを省くようにする。(町 70.0% 県 77.9% 全国 81.0%)

◇漢字の書きについては、概ね出来ています。

- ・問題A1-3 先生にそうだんする。(町 65.7% 県 61.7% 全国 64.2%)

◇図と表を関係付けて読む力は概ね出来ています。

- ・問題A5 否定の文章表現を、グループの希望に関連付けて読み取る。  
(町 97.1% 県 92.7% 全国 93.1%)

◆日本語をローマ字表記に変換する力に、課題がみられます。

- ・問題A8-2 あさつて → asatte (町 25.7% 県 38.5% 全国 41.8%)

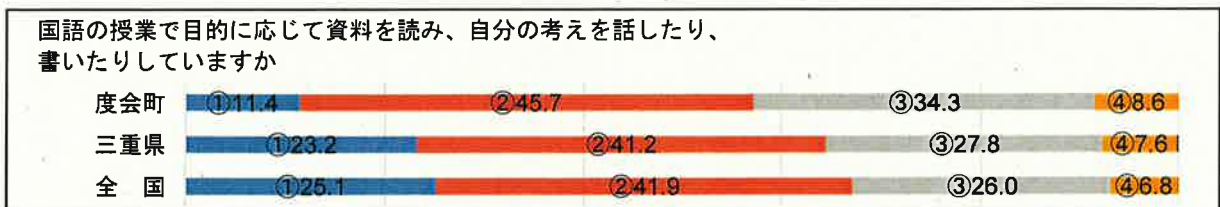
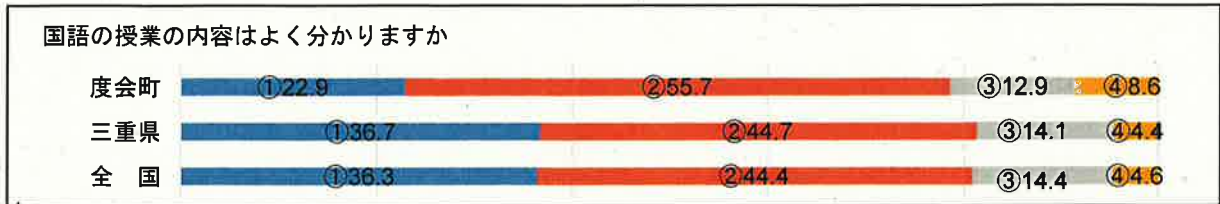
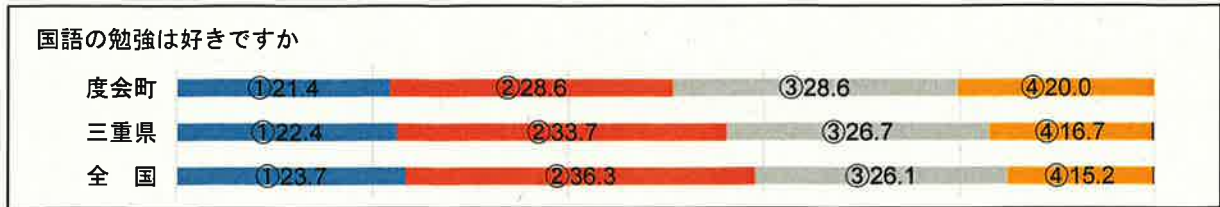
◆図にある情報から課題を読み取る力、条件を踏まえて記述することについて、課題がみられます。

- ・問題B2-2(2) 高野さんは、「2 課題」を受け、多くの人が取り組めることを考えて「3 解決方法」を書こうとしています。Cの中に入る内容を、次の条件に合わせて書きましょう。

(町 54.3% 県 65.6% 全国 64.2%)

## ■学習への関心・意欲・態度（児童質問紙から）

①当てはまる ②どちらかといえば、当てはまる ③どちらかといえば、当てはまらない ④当てはまらない

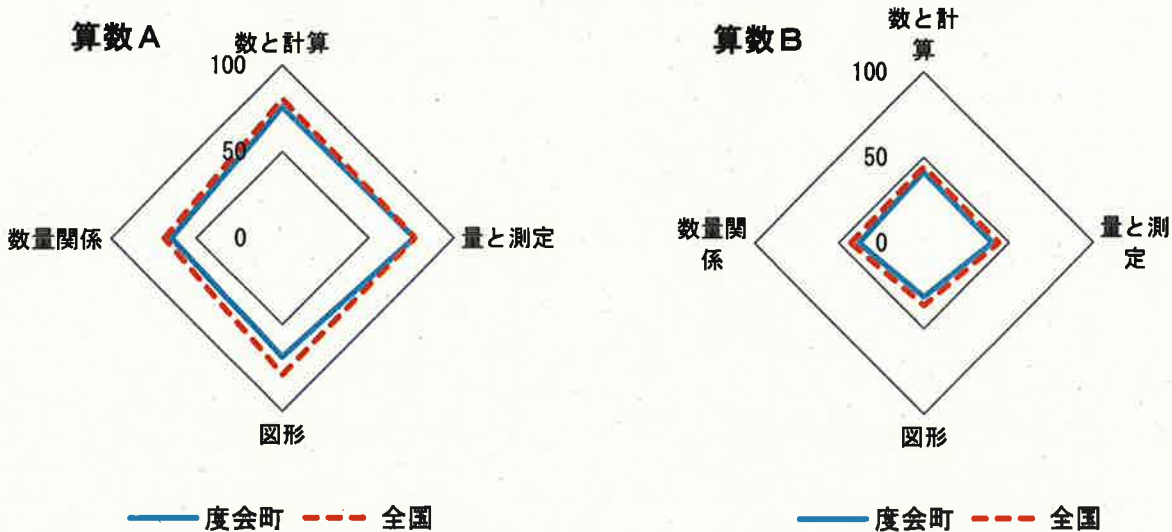


## ■全体的傾向と課題

- ・基礎基本の力は概ねついていますが、漢字の定着にむらが見られます。また、問題全体で無回答率が低い結果が出ており、難しい問題にも最後まで取り組んでいる姿勢が伺えます。
- ・インタビューの題材では、話し手の意図を捉え、文でまとめる力に課題がみられ、必要な情報を読み取り表現することが苦手な児童が多いようです。また、目的に応じて図と表とを関係付けて読むことは出来るが、それを基に自分の考えを表現することにつながらないなど、全体として文章表現について課題がみられます。
- ・「国語の授業の内容はよく分かるか」に対し、肯定的に感じている児童が多いものの、「国語の勉強が好きか」に対し、約半数の児童が否定的な結果となっています。
- ・相手に伝わるように工夫して話を組み立てることに対して、約4割の児童が意識をしていないと回答しており、学力調査においてもそこが低い数値となっています。引き続き丁寧な指導が必要な状況です。

## 【2】小学校算数

### ■領域別平均正答率の状況



### ■調査問題結果からみる傾向 (◇強み ◆弱み)

◆小数の仕組みと数の相対的な大きさの理解について、習得にむらが見られます。

- ・問題 A③(2) 下の3つの数の中で、いちばん小さい数と、いちばん大きい数を書く。

7.1    7    7.01

(町 70.0% 県 75.5% 全国 74.1%)

◆1を超える百分率で表す場面における基準量と比較量の関係の理解について、課題が見られます。

- ・問題 A⑨(2) バスに乗っている人数は60人で、定員数より20%多い。定員をもとにしたときの乗っている人数の割合を、百分率を使った図に表し、定員数及び60人は何%かを答える。(町 48.6% 県 53.3% 全国 50.9%)

◆出題された課題について言葉と式などを用いて正しく説明することに、課題が見られます。

- ・問題 B①(2) 正方形の縦の長さを2cm短くし、横の長さを2cm長くすると、面積をどうなるかを1辺が7cmの正方形を使って考え、言葉と式で説明する。(町 40.0% 県 44.1% 全国 45.2%)
- ・問題 B④(3) 数の変化を折れ線グラフにまとめ、軸の数値の違いを把握して言葉や数を使って説明する。(町 21.4% 県 26.4% 全国 24.9%)

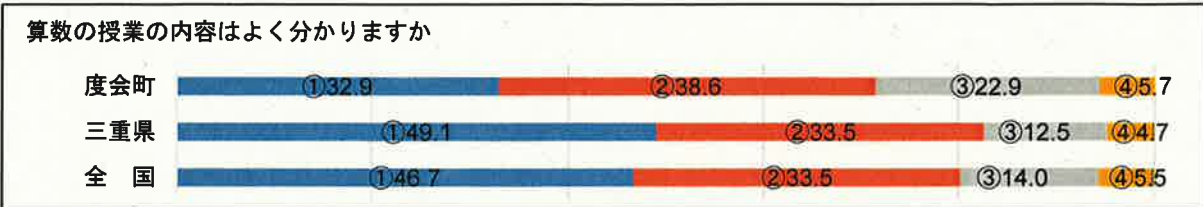
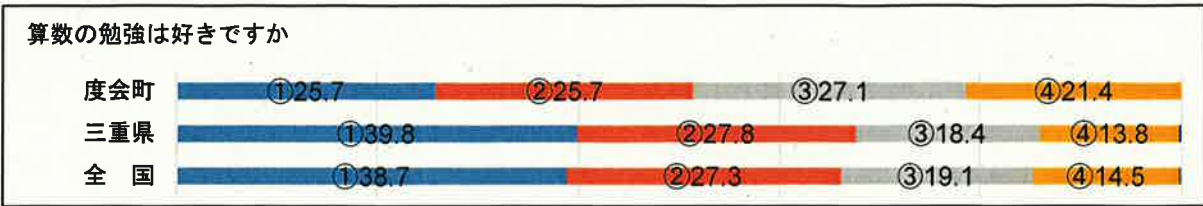
◇示された乗法や除法の式の意味を解釈することが概ね出来ています。

- ・問題 B③(1) 1人分のメダルを作るのに必要なリボンの長さは80cm。24人分を作る場合、リボン2000cmで足りるかどうかを考えた式が3つあり、その式はそれぞれ何を求めるための式であるかを選択肢の中から選ぶ。

(町 65.7% 県 62.7% 全国 62.6%)

## ■学習への関心・意欲・態度（児童質問紙から）

①当てはまる ②どちらかといえば、当てはまる ③どちらかといえば、当てはまらない ④当てはまらない

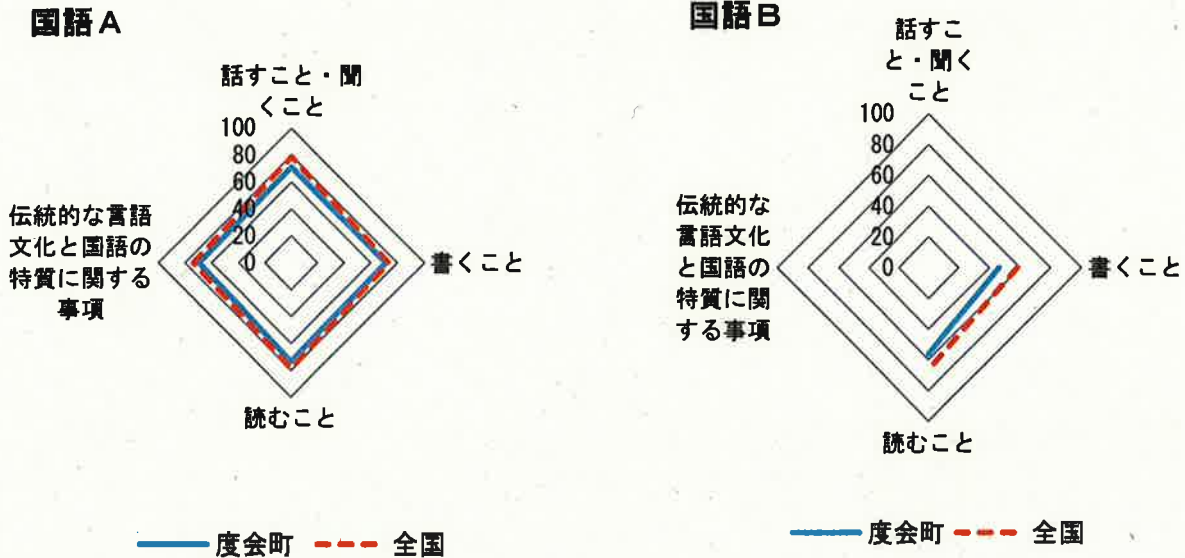


## ■全体的傾向と課題

- ・基礎的・基本的な計算技能の習得にむらが見られます。安易な計算ミスを減らすために、反復学習の更なる実施と見直しの習慣を身に付けることに課題があります。
- ・計算の法則などが理解できていない児童が多く、平均を下回る結果となっています。また、図形の理解について大きなむらが見られることから、図形問題を読み解く基礎からの復習と段階的な演習の反復を実施し、基礎基本からの系統性のある指導が必要となっています。
- ・半数以上の児童が算数を好きでないと答えていますが、ほとんどの児童が将来社会に出たときに役に立つと考えおり、好き嫌いに関係なく算数の重要性を理解しているようです。
- ・問題の解き方や考え方が分かるようにノートを書くことに努めている児童が8割以上あるのに対し、公式などの理解は6割強となっており、ノートを書いて満足してしまい理解に至っていない児童がいることが推測されます。

### 【3】 中学校国語

#### ■ 領域別平均正答率の状況



※国語 B に「話すこと・聞くこと」<伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項>領域にかかる問題は出題されていません。

#### ■ 調査問題結果からみる傾向 (◇強み ◆弱み)

◇伝えたい事柄について、根拠を明確にして書くことが概ね出来ています。

- ・問題 A4二 質問に対する答えが明確になるように適切な言葉を書く。

(町 79.2% 県 78.5% 全国 78.7%)

◆文脈に即して漢字の読み書きや、語句の意味を理解し適切に使うことにやや課題がみられます。

- ・問題 A9一 2 今までにないドクソウ的な考えだ。(町 19.5% 県 22.6% 全国 26.1%)

- ・問題 A9二 2 長年の努力が報われた。(町 87.0% 県 94.2% 全国 94.8%)

◇辞書を活用し、漢字が表している意味を正しくとらえることが概ね出来ています。

- ・問題 A9四ア 「賛美」の「美」の意味を理解する。

(町 59.7% 県 58.1% 全国 60.3%)

◆文章の構成や表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えを具体的に書くことに課題がみられます。

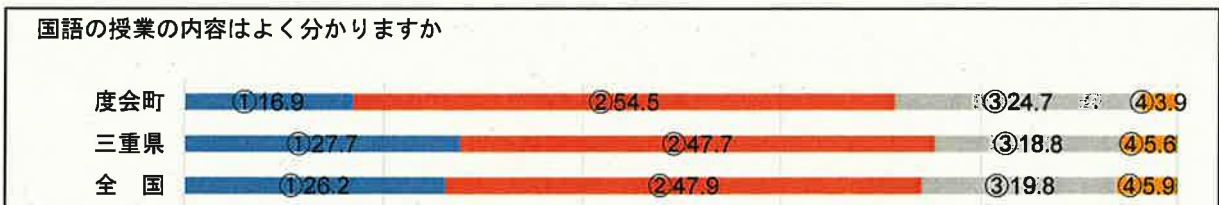
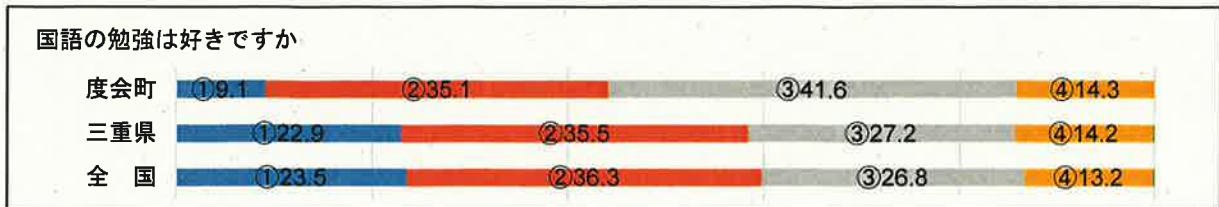
- ・問題 B1三 ちらしにある表現の工夫に気付き、どのような効果があるかを条件に従って記述する。(町 50.6% 県 64.4% 全国 67.9%)

◆本や文章などから必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書くことに課題がみられます。

- ・問題 B3三 物語に出てくる物の図解説明を読むことにより、分かりやすくなった箇所と内容を書く。(町 46.8% 県 55.5% 全国 57.6%)

## ■学習への関心・意欲・態度（生徒質問紙から）

①当てはまる ②どちらかといえば、当てはまる ③どちらかといえば、当てはまらない ④当てはまらない

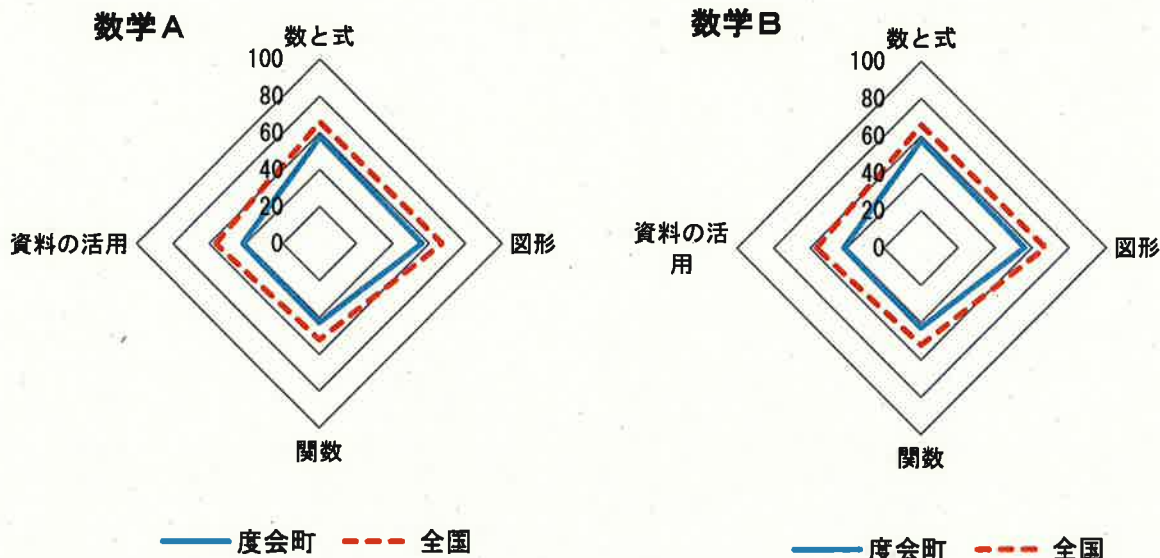


## ■全体的傾向と課題

- ・基礎基本の力は概ね身に付いていますが、日常あまり使われない語句や使用頻度の低い漢字、また単語のもつ文法的な役割や品詞の名称を理解することに課題がみられることから、普段から文字や文章に触れる機会を増やすなどの取組が必要となっています。
- ・聞くこと、話すことにやや課題がみられ、対話や討議をする場や互いに意見を述べ合う授業が求められます。また、自分の考えを文章で表現することにも課題があり、聞く・発言する・まとめる(文章化)へとつなげる系統性のある能力を身につけることが必要となっています。
- ・「国語の勉強が好き」と答えた生徒が過半数ないのに対して、「国語の勉強は大切だ」「授業がよくわかる」と肯定的に回答する生徒が多くを占めており、国語の重要性を認識していることや授業に積極的に参加していることが読み取れます。

## 【4】 中学校数学

### ■領域別平均正答率の状況



### ■調査問題結果からみる傾向 (◇強み ◆弱み)

◇整式の加法と減法の計算は概ね理解できています。

- ・問題A②(2)  $(2x+5)+3(x-2y)$  を計算する。 (町 84.4% 県 83.7% 全国 84.0%)

◆一元一次方程式の解の意味の理解に課題がみられます。

- ・問題A③(2) 一次方程式  $2x=x+3$  の左辺と右辺それぞれの  $x$  に 3 を代入したとして、この方程式の解を答える。 (町 33.8% 県 46.9% 全国 47.2%)

◆円錐の体積は、それと底面が合同で高さが等しい円柱の体積の  $1/3$  であることの理解に課題がみられます。

- ・問題A⑤(4) 底面の円が合同で高さが等しい円柱えんすいと円錐で、円柱の体積が  $600 \text{ cm}^3$  のときの円錐の体積を求めなさい。 (町 28.6% 県 48.9% 全国 49.9%)

◆関数で、与えられた条件を基に、2つの数量の変化や対応の特徴を捉え、 $x$  の値に対応する  $y$  の値を求めるに課題がみられます。

- ・問題B②(1)  $x$  の値に対応する  $y$  の値を記した表をまとめ、 $x=4$  のときの  $y$  を求める。 $y$  は  $x$  の一次関数であるとするとき、 $x=4$  のときの  $y$  の値を求めなさい。 (町 40.3% 県 57.0% 全国 59.1%)

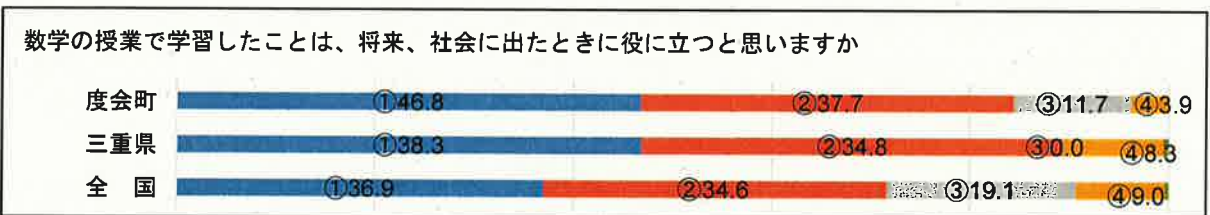
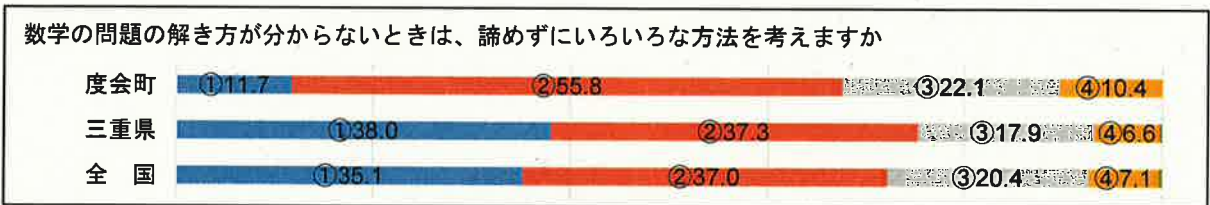
◇数学的な結果を事象に即して解釈し、問題解決のために数学を活用する方法を考え、説明することが概ね出来ています。

- ・問題B③(3) A車、B車の車両価格、燃料代、使用年数を基に、両者の総費用が等しくなる使用年数を求める方法を式またはグラフを用いて説明する。 (町 35.1% 県 32.8% 全国 30.3%)



## ■学習への関心・意欲・態度（生徒質問紙から）

①当てはまる ②どちらかといえば、当てはまる ③どちらかといえば、当てはまらない ④当てはまらない



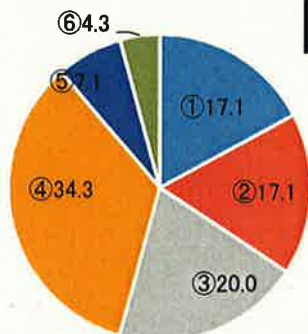
## ■全体的傾向と課題

- ・基礎学力に課題がある生徒には、基礎的な計算技能をはじめとする計算全般及び図形、関数、資料活用などのすべての分野において基礎基本の定着のための取組が求められます。一方の基礎基本がしっかり身につけている生徒には発展的学習が望まれることから、それぞれの能力に応じた習熟度別指導が必要となっています。
- ・円錐の体積について、円柱との関係や体積を求める公式の理解等、全体として課題がみられることから、図形分野での基礎の復習及び演習問題の反復練習などで、理解を深めていく必要があります。
- ・数学に対する学習意欲は「授業がよく分かる」と約半数の生徒が肯定的に回答し、全体に占める割合は高くなっています。また、解き方が分からない問題にもあきらめずに取り組むと答えている生徒も多く、学習に対し前向きな姿勢がうかがえます。さらに、将来社会に出たときに役立つと考えている割合も高く、数学の重要性を認識していることが読み取れます。

### 3、児童生徒質問紙調査の概要

#### 【1】生活習慣

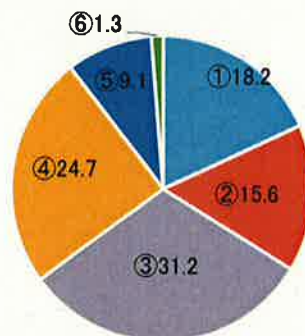
##### ■小学校



平日のテレビ、ビデオ、DVD視聴時間

- ① 4時間以上
- ② 3時間以上 4時間未満
- ③ 2時間以上 3時間未満
- ④ 1時間以上 2時間未満
- ⑤ 1時間未満
- ⑥ 全く見たり聞いたりしない

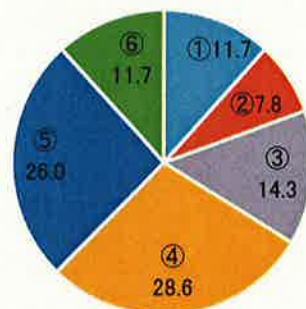
##### ■中学校



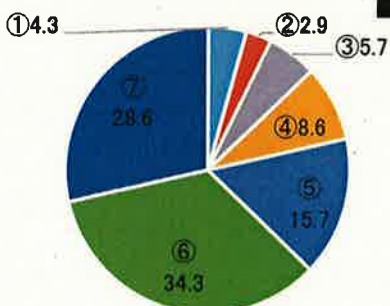
平日のテレビゲームを行う時間



- ① 4時間以上
- ② 3時間以上 4時間未満
- ③ 2時間以上 3時間未満
- ④ 1時間以上 2時間未満
- ⑤ 1時間未満
- ⑥ 全くしない



平日の携帯電話での通話・メール・ネット時間



- ① 4時間以上
- ② 3時間以上 4時間未満
- ③ 2時間以上 3時間未満
- ④ 1時間以上 2時間未満
- ⑤ 30分以上 1時間未満
- ⑥ 30分未満
- ⑦ 持っていない



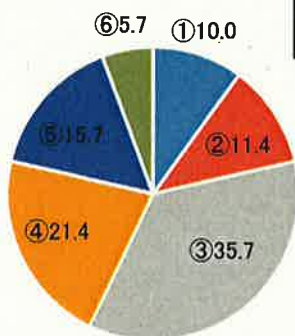
度会町の小・中学生の状況です。小学生では、3時間以上テレビやビデオを視聴している割合34.2%（全国平均32.8%）、3時間以上ゲームをしている割合12.9%（全国平均16.0%）、3時間以上携帯電話を使用している割合7.2%（全国平均5.8%）であり、全国平均とほぼ同程度と言えます。

中学生では、3時間以上テレビやビデオを視聴している割合33.8%（全国平均24.1%）、3時間以上ゲームをしている割合19.5%（全国平均18.9%）、3時間以上携帯電話を使用している割合19.5%（全国平均16.6%）であり、全国平均よりやや高い傾向にあります。

また、小学6年生で71.5%（全国平均61.1%）の児童が、中学3年生では84.5%（全国平均80.9%）の生徒が携帯電話を所持している、又は使用できる環境にあることが分かりました。

## 【2】 家庭学習

### ■小学校



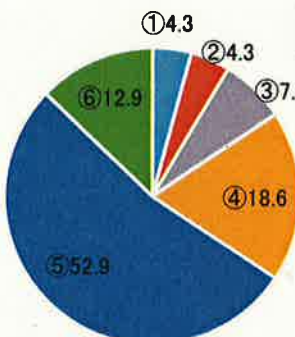
平日の勉強時間(学習塾・家庭教師含む)

- ① 3時間以上
- ② 2時間以上 3時間未満
- ③ 1時間以上 2時間未満
- ④ 30分以上 1時間未満
- ⑤ 30分未満
- ⑥ 全くしない

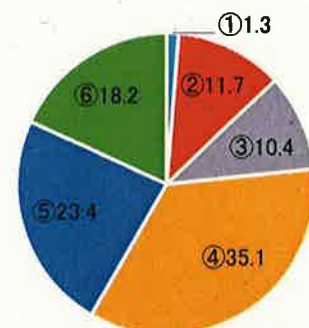
### ■中学校



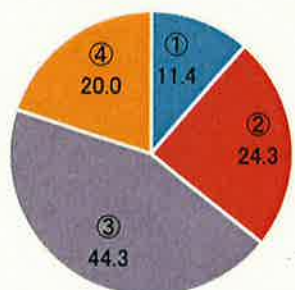
土日の勉強時間(学習塾・家庭教師含む)



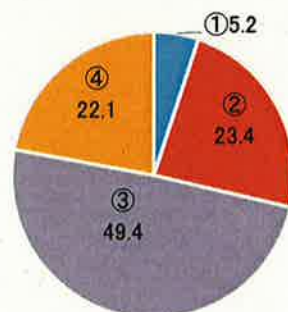
- ① 4時間以上
- ② 3時間以上 4時間未満
- ③ 2時間以上 3時間未満
- ④ 1時間以上 2時間未満
- ⑤ 1時間未満
- ⑥ 全くしない



自分で計画を立てて勉強しているか



- ① している
- ② どちらかといえば、している
- ③ あまりしていない
- ④ 全くしていない



平日1時間以上勉強している小学生の割合は57.1%（全国平均62.5%）、土・日曜日では34.3%（全国平均57.0%）で、全国平均と比べ低く、特に休日の家庭学習に大きな差異がみられます。

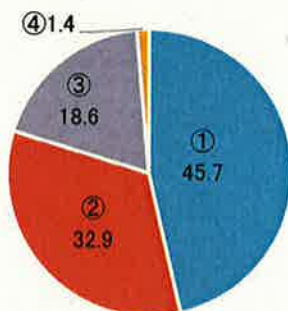
中学生も、平日1時間以上勉強している生徒の割合52.0%（全国平均67.9%）、土・日曜日では58.5%（全国平均67.8%）で、全国平均と比べ1割ほど低い傾向にあります。また、「全くしない」生徒が平日で11.7%（全国平均5.5%）、土・日曜日では18.2%（全国平均11.0%）と高い傾向にあります。

また学校の宿題については、小学生はきちんと行うものの、中学生は35.1%（全国平均68.1%）と低く、予習や復習、自分で計画を立てて勉強している割合は、小中ともに低い結果となっています。家庭学習の習慣がしっかり身に付いていないことや、主体的に学習に取り組む姿勢が弱いことが分かります。

学校と家庭が連携して、子どもたちが自ら学習に取り組みやすい環境づくりと、習慣を身につけるようなサポートが必要であると思われます。

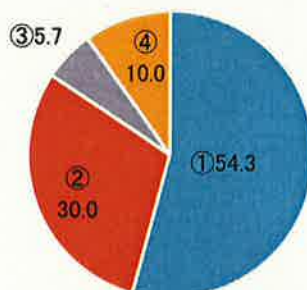
### 【3】 学校生活・規範意識

#### ■小学校



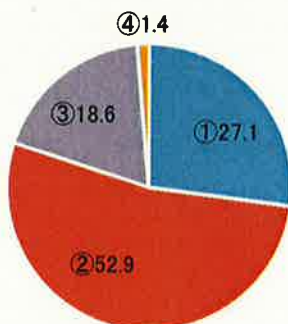
学校に行くのは楽しいと思いますか

- ① そう思う
- ② どちらかといえば、そう思う
- ③ どちらかといえば、そう思わない
- ④ そう思わない



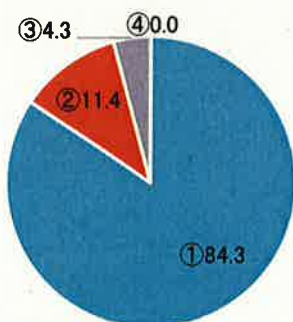
学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか

- ① 当てはまる
- ② どちらかといえば、当てはまる
- ③ どちらかといえば、当てはまらない
- ④ 当てはまらない



学校のきまり(規則)を守っていますか

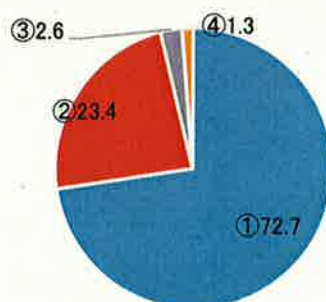
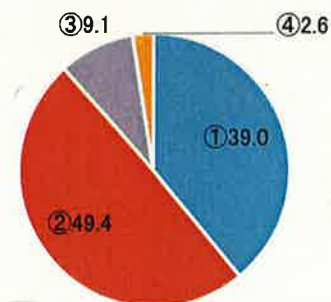
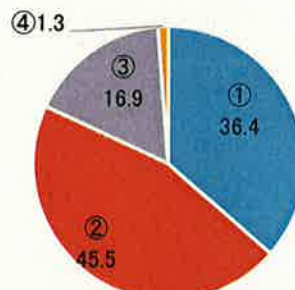
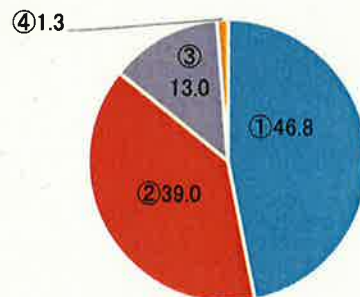
- ① 当てはまる
- ② どちらかといえば、当てはまる
- ③ どちらかといえば、当てはまらない
- ④ 当てはまらない



いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

- ① 当てはまる
- ② どちらかといえば、当てはまる
- ③ どちらかといえば、当てはまらない
- ④ 当てはまらない

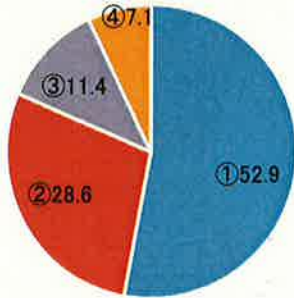
#### ■中学校



学校のきまりや、いじめに対する意識など、児童生徒の規範意識は比較的高い傾向にありますが、一方で「人が困っているときは、進んで助けていますか」という問いに対して否定的な回答が比較的多く、特に中学校は全国平均より7.4%も否定的な回答が高くなっています。

## 【4】 地域、社会に対する興味・関心

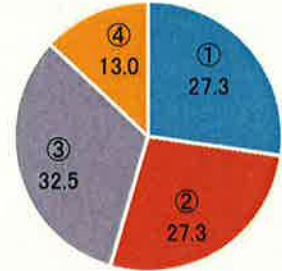
### ■小学校



地域の行事に参加していますか

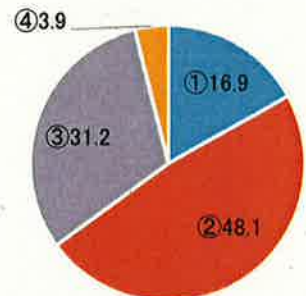
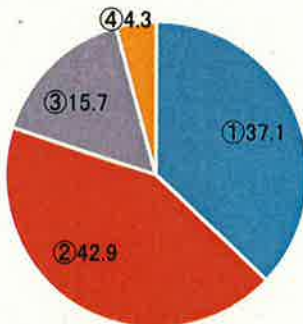
- ① 当てはまる
- ② どちらかといえば、当てはまる
- ③ どちらかといえば、当てはまらない
- ④ 当てはまらない

### ■中学校



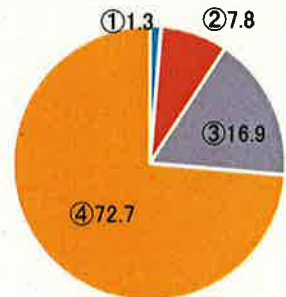
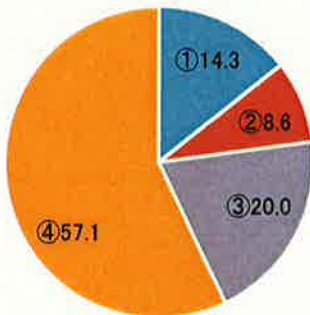
地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか

- ① 当てはまる
- ② どちらかといえば、当てはまる
- ③ どちらかといえば、当てはまらない
- ④ 当てはまらない



新聞を読んでいますか

- ① ほぼ毎日読んでいる
- ② 週に1~3回程度読んでいる
- ③ 月に1~3回読んでいる
- ④ ほとんど、または全く読まない

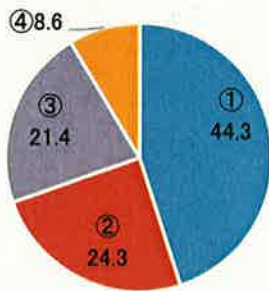


地域の行事に参加している児童は52.9%（全国平均39.1%）、生徒27.3%（全国平均19.1%）と全国平均より高くなっていますが、昨年度同様、中学生になるほど地域との関わりが薄くなっていることが伺えます。それは、地域や社会で起こる問題や出来事への関心の低さに対しても同じことが言えます。

テレビのニュース番組やインターネット（携帯電話を使う場合を含む）のニュースは、昨年度は8割近くの児童生徒が見ていましたが、今年度は5割強と低下しています。また、新聞を読んでいる割合は小中学生ともに低く、全く読まない割合が極めて高いです。近年、新聞をとっていない家庭も増えてきていることが理由の一つとして考えられます。また、新聞だけでなく、テレビやインターネットからのニュース検索をする割合も低く、現代の社会情勢に対する関心の低さが伺えます。

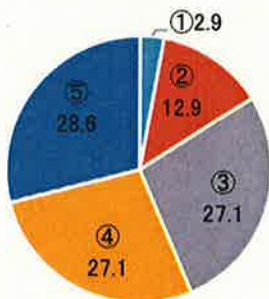
## 【5】読書活動

### ■小学校



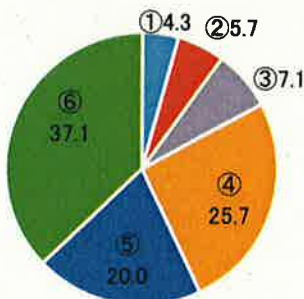
読書は好きですか

- ①当てはまる
- ②どちらかといえば、当てはまる
- ③どちらかといえば、当てはまらない
- ④当てはまらない



昼休みや放課後、休日に学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか

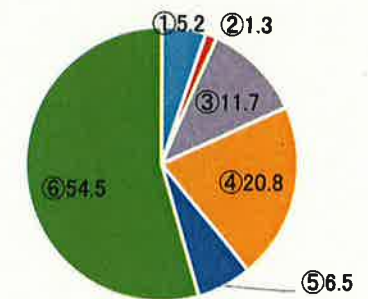
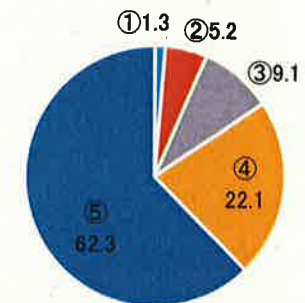
- ①だいたい週に4回以上行く
- ②週に1~3回程度行く
- ③月に1~3回程度行く
- ④年に数回程度行く
- ⑤ほとんど、または全く行かない



平日、学校の授業以外に、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか

- ①2時間以上
- ②1時間以上、2時間未満
- ③30分以上、1時間未満
- ④10分以上、30分未満
- ⑤10分未満
- ⑥全くしない

### ■中学校



質問紙調査によると、児童 68.6%、生徒 54.6%が「読書は好き」と回答しているものの、全国平均（児童 74.6%、生徒 69.9%）と比べると低い傾向にあります。また、学校の図書室や地域の図書館に行く頻度については、月に1~3回程度行く児童 27.1%（全国平均 23.9%）、生徒 9.1%（全国平均 11.0%）であり、大きな差異はありませんが、図書との触れ合いが少ないようです。特に、「ほとんど、また全く図書室に行かない」と回答した中学生は、62.3%（全国平均 58.0%）にのぼり、活字離れが顕著に表れています。

小中学校では、社会教育事業（図書管理業務委託）と連携して図書運営員を中心に、児童生徒の読書環境の整備に努めています。また、町としても読書に関するイベントや事業を積極的に展開しており、小中学生だけでなく住民全てに図書に触れる機会が持てるよう努めています。

## 4、学校質問紙調査の概要

全国学力・学習状況調査では、児童生徒を対象としたもの以外に、学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する『学校質問紙調査』も実施されました。児童生徒に対する調査結果と併せて分析し、各学校の指導方法の工夫、改善に繋げていきます。

放課後を利用した補足的な学習サポートを実施しましたか。

<小学校>月に数回程度行った <中学校>月に数回程度行った

放課後の時間を有効に活用し、基礎基本の定着を目的として実施しました。特に中学校の数学では、基礎、基本問題を精選し、全て正解するまで補習問題を継続することとしています。くり返し問題を解くことで、着実に力をつけていきます。

授業の中で目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れましたか

<小学校>どちらかといえば、行った <中学校>どちらかといえば、行った

「めあて」は、児童生徒がこの1時間の見通しをもつための仕掛けです。学習課題を解決していくための手がかりをつかむことで、「出来そう」「こうやったらどうかな」という意欲が高まり、目的意識をもって授業に参加することが出来ます。

児童生徒質問紙「授業のはじめに目標（めあて・ねらい）が示されていますか」に対し、小学生77.2%と、肯定的な回答が今年も多くなっています。昨年度は61.4%と肯定回答が低かった中学生ですが、今年は、89.6%と昨年度より28.2%も向上しており、改善の努力がうかがえます。

今後も、提示の仕方や、実態を踏まえめあてへの創意工夫を今後一層図っていきたいと思います。

授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れましたか

<小学校>あまり行っていない <中学校>どちらかといえば、行った

「振り返り」は、授業冒頭に示しためあてに対して行うもので、児童生徒が学んだ内容を再確認したり、「出来た」「こうすれば良かった」など、達成感や次の学習への意欲につながる大切な活動です。

小中学校では、めあての提示と同様に、各教科に応じた方法で行っているところですが、児童生徒質問紙「授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか」に対しては、45.7%の小学生が、72.7%の中学生が肯定的な回答をしています。特に小学校は、昨年度は「どちらかといえば行った」という回答から「あまり行っていない」と後退した回答となっています。小学生の肯定的な回答も昨年度から6.8%も下がっており、更なる見直しが必要です。

自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしましたか

<小学校>どちらかといえば、行った <中学校>どちらかといえば、行った

必要な情報を抜きだし、読み手に伝わりやすく表現する力を定着させます。児童生徒質問紙で「400字詰め原稿用紙2-3枚の感想文、説明文を書くことが難しいか」という問いに対して、「そう思う、どちらかといえば、そう思う」と答えた小学生が84.3%、中学生が83.2%と回答しています。学力調査における文章問題の正答率が小中ともに低いことから、文章として表現する力の向上を図り、苦手意識の払拭が必要です。

学習規律（私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなど）の維持を徹底しましたか

＜小学校＞よく行った　＜中学校＞よく行った

学習規律の確立は、学びの基盤とも言えます。小中学校では、校内の共通理解のもと、学年段階に応じて計画的に、そして繰り返し丁寧に指導しています。

教科や総合的な学習の時間、あるいは朝や帰りの会などにおいて、地域や社会で起こっている問題や出来事を学習の題材として取り扱いましたか

＜小学校＞どちらかといえば、よく行った　＜中学校＞よく行った

学校での学習内容が、普段の生活や児童生徒の身近な問題の中で、生きた知識として活用されることが大切です。児童生徒質問紙調査によると、地域や社会の出来事に関心がある割合は小学生 80%、中学生 65% が関心があると答えています。今後も地域学習の充実を図っていきます。

学校生活の中で、生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ、生徒に伝えるなど積極的に評価しましたか。

＜小学校＞どちらかといえば、よく行った　＜中学校＞よく行った

ほんの些細なことでも周りから評価されることは、個々の自信につながり、自己肯定感を高めてくれます。それは、多方面へのやる気につながり自身を高めるきっかけとなります。また、自分をしっかり見守ってくれている人が周りにいるという安心感も得られ、健やかな成長に結びつきます。

校長は、校内の授業をどの程度見て回っていますか

＜小学校＞ほぼ毎日　＜中学校＞ほぼ毎日

学校長は、都合のよい時間をみては、校内を巡回しています。それは、授業の時間に限らず、登下校や昼休みの時間、時には児童生徒がいない玄関や教室など、校内の様子を直接見て確認します。管理職として学校全体を把握し、児童生徒の頑張りや困り感、教職員一人ひとりの指導に注視していくことへの責任があります。

平成 27 年度全国学力・学習状況調査の自校の結果を分析し、学校全体で成果や課題を共有しましたか

＜小学校＞行った　＜中学校＞よく行った

全国学力・学習状況調査は、対象学年の児童生徒のためだけに実施されている調査ではなく、全ての児童生徒、全ての学年の教職員の授業の工夫・改善のために実施される調査です。昨年度の結果分析にあたっては、各校および町教育委員会の分析に加え、県教育委員会の分析指導も受けながら丁寧に行いました。

その上で、課題の克服に向け、県教育委員会学力向上アドバイザーや、県教育支援指導主事等による学校訪問指導や、過去問題活用授業の実践や、外部講師を招聘した校内研修、また教職員間での模擬授業の実践などにも取り組んでいます。



## 5、全体的な課題

### 学力調査からみえる課題

学習した知識・技能を日常の事象・現象、  
また社会的問題に当てはめて考える力の育成

- ・話し手の意図を捉えながら聞いて、自分に必要な情報を得たり、自分の意見と比べながら話の展開に沿って話すことは日常生活においても重要なことです。自分の考えとの違いは何かと注意深く聞くことが出来るようになるための指導が必要です。
- ・自分の考えを整理し、他者に伝えたり、書いてまとめたりする技能を身に付ける指導の充実がより求められます。

### 学習状況調査からみえる課題

主体的に学習に向かう姿勢と生活習慣の見直し

- ・授業や家庭学習において、与えられた指示以外に、自ら課題を持ち、積極的に学習に向かう姿勢を強めていく必要があります。
- ・生活習慣の見直しや、家庭学習の習慣化に向け、家庭と連携し出来る事から一つずつ進めていく必要があります。
- ・自己肯定感が低めの児童生徒に対し、授業に限らず、学校行事や学級活動等の学校教育活動全体を通して、具体的取組を強化する必要があります。

## 6、今後の取組・支援

### 【1】教育委員会が行う取組・支援

今回の全国学力・学習状況調査に際し、各学校では昨年度同様、調査後一人ひとりの解答用紙をコピーし、一言一句丁寧に読み返し、自校採点を行いました。細かな分類に分けて採点し、確実に集計していきます。そのように採点することで、一人ひとりのつまずきを把握し、解答を細かに分類することで、問題を深く研究し、学習指導要領で求められている内容の理解を深め、その上でこれまでの授業を振り返り、早期から授業の工夫・改善に向け取り組んでいます。

町教育委員会では、こうした各学校の取組を支援するとともに、指導主事の派遣を通じ、授業改善や校内研修がより効果的に行われるよう指導を行います。

#### ■具体的事項

- ・ 少人数指導等、個々の児童生徒に応じたきめ細かな指導が行えるよう引き続き支援します。
- ・ 特別な配慮を必要とする子どもへのサポート体制や、教育相談体制を一層推進します。
- ・ 教職員研修や授業研究を通じ、教職員の資質向上ならびに授業改善を図ります。
- ・ 町教育委員会と小中学校の担当で組織する度会町学力向上部会等を通して、9年間を見通した教育の充実に努めます。
- ・ 度会町ふるさと歴史館等の学習施設の充実に努めるとともに、各種イベントを通じた郷土学習に取り組めます。
- ・ 児童生徒の主体的な学習意欲を育むため、地域学習や体験活動など各種取組を支援します。
- ・ 土曜日授業がより効果的に実施されるよう、定期的な検証を行います。
- ・ 計画的な図書整備や専門員配置など、読書環境の整備を継続して行います。併せて、読書推進に向けた各種事業にも積極的に取り組みます。
- ・ 地域の方々に、学校教育活動に一層興味・関心をもってもらい、学校とともに子どもたちを育み、見守っていただくため、学校ならびに教育委員会は積極的に情報を発信していきます。

### 【2】家庭や地域へお願いしたいこと

子どもの教育は、学校だけで行われるものではありません。学校・家庭・地域が相互に連携して、町全体で取り組むことが大切です。

子どもたちが将来社会人として自立するための基礎となる「学ぶ力」をみんなで育てましょう。「学ぶ力」とは、「なぜ?」「知りたい」「調べてみよう」と、問題を見つけ出し、学んだ知識を活用しながら、見通しをもって、その解決を図る力のことを言います。

これは学校だけでなく、各ご家庭や地域の皆さま方の協力によって、その成果はより大きなものになります。

子どもたちに声をたくさんかけてあげてください。子どもたちは、認められ励まされることで、見守られている安心感や、日々の努力に対する達成感、充足感を感じることが出来ます。それが子どもたちの自信と今後の取組みに対するやる気につながります。

地域全体で協力して、心身共に健やかな子どもたちを育てていきたいと考えています。

## ■保護者の皆さまへ

- ・「早寝早起きをする」「朝食をきちんと食べる」等毎日の規則正しい生活リズムが大切です。
- ・テレビ、ゲーム、携帯電話の使用は、ご家庭でのルールをしっかり話し合しましょう。

※スマホ、LINE等のトラブルが全国的に大きな問題となっています。利便性だけでなく、危険性についても、よく話し合しましょう。

- ・子どもの学習に目を向け、“頑張り”を見逃さず、応援することで、自主的な家庭学習の定着を図りましょう。
- ・学校や身のまわりの出来事など、子どもと話す時間をもち、しっかり聴いてあげてください。そして、良いところは褒め、注意するべきところはその理由も併せて教えてあげてください。
- ・地域や社会の出来事に目が向くよう、新聞やニュースをもとに、働きかけをしましょう。
- ・地域の行事やPTA行事には、子どもと一緒に参加しましょう。
- ・家族の一員として、家事への協力を呼びかけ、責任感と自立心を育てましょう。
- ・読書をとおした学びを応援してください。本を通じた共通の話題をもったり、図書室に立ち寄りたりするなど、無理なく出来ます。保護者の方も一緒に楽しみませんか。町民の皆さまが利用できる図書室として、町内には、中央公民館図書室（棚橋）、地域交流センター図書室（棚橋）、南伊勢高校度会校舎図書館（大野木）があります。

## ■地域の皆さまへ

- ・子どもたちは、元気にあいさつをしていますか。学年が上がると照れもあるのか、声も小さくなりがちですが、地域の方との触れ合いは、まず「あいさつ」です。恥ずかしがっているようなら、一声掛けてあげていただけませんか。
- ・子どもたちは、地域での遊びや行事、交流活動から、社会性を身に付けていきます。良い行いは褒め、危険なことやマナーに反することには、毅然とした対応をお願いします。
- ・少子化により兄弟姉妹や地域内の同世代と関わる機会が減っています。また、家族のスタイルも変わりつつある中で、子どもが学校や家庭以外で、他者と関わる機会が今後一層減っていくことが危惧されます。中でも、異年齢者と関わる大切な機会は、今後一層地域の中で求められることとなります。温かい見守りと声掛けをお願いします。

“子どもの可能性を真っ直ぐ伸ばしましょう”

